

令和四年度 入学試験（一般 第四回）問題（国語）

【1】 次の文章を読んで、後の問【1】～【4】に答えなさい。

よく恋愛はバトルだと言う人がいる。恋愛というのは基本的に戦いであるわけだから、当然勝ち負けがつく、そういう意味のことだ。

その辺が私にはよく分からない。いくらバトルと言つてもスコアーが出るわけじゃないのだから、勝ったか負けたかなんて本人の気の持ちようなわけでしょ？ 誰が見たって遊ばれて捨てられたって結果でも、本人が勝つたと思つていればいいわけでしょ？ 要するに楽天的にものを考えようというわけなんだろうか。

そりやまあ、勝ち負けにしたい人はすればいい。だけど、負けたくないからって理由だけで、声を聞きたいのに電話するのを我慢したり、泣きたいのに泣かなかったり、さわりたいのにさわらなかつたりするのは、どうも

【2】 気がする。

思つたままに何でもすりやあいいってものでもない。それは知つていて。もう大人なんだから我慢しなきゃいけない時もあるし、プライドだつてある。でも、負けたくないって気持ちは何なんだろうって考えてしまう。

恋愛沙汰ではないことならば、【1】分かる。私には仕事上“絶対負けたくない”と思つていてる人がひとりいる。でもその人は私がこんなにも闘志を【◆】いることを知らない。私はその人が実は大嫌いで、大嫌いなのに気になつて仕方なくて、だから絶対負けたくないと思つていて。あんな奴に負けてたまるかと思うと、不思議に筆も進む。でも、そういう相手はその人ひとりだけだ。確かに親しい作家の方が、次々と新刊を出したり、雑誌インタビューにばーんと出てたりすると、私だって人間だからちょっと悔しいと思う。でも“負けた”なんて思わない。逆に私の本がどこかの書評で褒められていても“勝った”なんて思わない。勝ち負けでやつていてるわけではないから。

悔しい、と思う気持ちが【*】になる人もいる。そういう人は何でも勝ち負けにして、負けた悔しさでどんどん前進すればいいと思う。でも、悔しいという激しい感情に押しつぶされるタイプの人は、なるべく勝つたとか負けたとか意識しない方がいいと思う。

恋愛というのは“バトル”ではなくて“人間関係”なのだと私は思う。人間関係に勝ち負けを持ち込んで、それでうまくいくとはどうも私には思えないのだ。友人のひとりで、恋人にはガンガン思つてることをぶつける人がいる。それができるのは、本当に好きだからなのだと言つていた。ガンガン言つて相手を論破した時の快感つたらいいわ、と彼女は言つていたけれど、本当にそれで問題が解決するのだろうかと私は首をかしげた。

恋愛がバトルだと言うならば、勝たなければ意味がないわけでしょ？ それとも、負けてあげる【**】といふものを持っていて言つているのだろうか。戦いに勝つ、ということは、相手を負かすことなのだ。それでは相手の気持ちなど、どうでもいいことになつてしまふのじやないだろうか。誰だって負けるのは面白くないだろう。相手に面白くない思いばかりさせていたら、あなたはいつか嫌われるんじゃないだろうか。

「負けず嫌いの人」という表現は、根性があるとか気骨があるとか、どちらかと言うと褒め言葉であるような感じがするけれど、私はあまり「負けず嫌いの人」は好きじやない。

どちらかと言うと私は「惚れた弱味」に振りまわされる人の方に好感を持つ。

（山本文緒『負けず嫌いな人』）

【1】 空欄①～⑤に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問1】～【問2】

- 【1】 ① 変な ② 違う ③ 逆な ④ 背く ⑤ 別な

- 【2】 ① ほとんど ② 微かに ③ かえつて ④ 少しは ⑤ おおよそ

【2】空欄*と**に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 3 4】

- | | | | | | | |
|---|--------|-------|--------|-------|--------|------|
| 4 | 3 * | ①駆動力 | ②突破力 | ③原動力 | ④推進力 | ⑤機動力 |
| * | ①テクニック | ②ノウハウ | ③レトリック | ④スペック | ⑤マニュアル | |

【3】傍線部「闘志を」に続く◆として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【5】①秘めて ②奮つて ③立たせて ④燃やして ⑤翳して

【解答欄は問 5】

【4】波線部のように記した筆者の思いとして、ふさわしいと考えられるものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 6】

- 【6】①恋愛を「勝ち負け」と信じ込んでいること自体、そもそも不幸な人生ではないのか、という思い。
②ともすれば安易に流れがちな人間関係には、「勝ち負け」といった緊張感も時には大切、という思い。
③恋愛における「勝ち負け」とは何なのか、改めてきちんと考えることが不可欠、という思い。
④勝ったと確信した時、負けた人を思いやることこそが、人を成長させる、という思い。
⑤本当の気持ちをお互いに大切にすることが、恋愛を含めた人間関係の基本なのでは、という思い。

二次の文章を読んで、後の問【5】～【11】に答えなさい。

郷里の、岩手県北のちいさな町で一人暮らしをしながら、子供たちに琴を教えていた姉から電話で、いざとなるとすこし寂しい気がしないでもないけれど、今度よさそうな引き取り手があらわれたら思い切って手持ちの琴を残らず手放すことにしようと思うが、どうだろうかといつてきた。

姉はことし八十六になるが、若いころから長年にわたって妹のように、恋人のように、伴侶のよう^(A)に深く慈しみ合ってきた琴をあつさり手放す気になつたことに、私はまず驚かされた。

「それはまた、どういう心境の変化だろう。」

「なに、寄る年波のせいよ。」と笑いを含んだ声で姉はいった。「あんたもこの歳になればいろいろと心境に変化をきたすことがあると思うけど、私は単純に、自分が急にいなくなつたら残された人々はさぞかし琴や三絃の処分に困るだろうなと思つただけ。縁のない人たちにさんざん厄介者扱いをされたあげくに□^(A)に叩き売られるんじゃあ、夜な夜なうなされることになりかねないからね。」

「手入れがよかつたからな、うちの楽器は。」と私は思い出していく。「年に何度か専門の調律師に見てもらつたりしてね。そういうことを考えると、全部手放すというのはちょっと勿体ないような気もするな。いちばん想い出深いやつを一□◇だけ残しておいたらどうです、自分のために。」

「そうするつもりよ、一□◇だけね。」と姉はいった。

「私は子供のころからの琴弾きだから、数えきれないほどの想い出のために。それから、あなた自身の貴重な想い出のためにもね。」

私は思わず、え、と声を洩らした。姉がなにかをいいまちがえたか、舌がもつれるかしたのかと思った。

「もしもし、どうかした？」

「べつに。」と姉になんでもなさそうな口調で答えた。

「いまの、それから、のあとがちょっと聞き取れなかつた。もういっぺんいつてくれないかな。」

「それから、あなた自身の貴重な想い出のためにも、そういつたのよ。」

「……なんのことだろ。」と私は思い当たることがないので笑つていつた。

「僕は演奏家じゃないから、どの楽器にも想い出なんかないんだけど。」

「そうかしら……。」と疑い深そうに姉はいった。

「むかしのことだから忘れてるのよ。」

「これでも物覚えはいい方のつもりだけど。」

「それは認めるわ。なにしろ稽古場に入り浸つていてるうちに、地唄の〈黒髪〉をきれいに上げてしまつたお人だから。」

「そういえば、そんなこともあつたな。若かつた。」

と私はいった。学生生活を終えたばかりで、むりやり一本立ちをし、忽ちあつぶあつぶの窮状に陥つた。やがて□①に追い込まれ、姉が琴で支えていた岩手の家へ、妻と乳呑み子を連れて転がり込むことになる。無為徒食の暮らしが思いのほか苛酷に身に応え、とても居たまれなくて、朝、街なかの酒屋の二階に借りている稽古場へ姉を送り届けると、そのまま隣室の襖の蔭に陣取り、入れ替わり立ち替わりやつてくるお弟子の女性たちと姉とのやりとり、はじける笑い、ふだんあまり耳にしたことのない姉の冗談や鋭い叱責^(B)の声に聞き入り、稽古場が静まる隙をねらつて聞きおぼえたどの曲かの断片をあわただしく弾いてみる。ある日、それを小耳に(a)姉が、なかなか筋がいいなと呟き、正式に習いもしない地唄の〈黒髪〉を唄ぬきながら半分ばかりをすらすら弾き進めたときは、見る見る怖いほど真面目な顔になつて、この子、ひょっとしたら道をまちがえたかもしれないよ、と独り言をいつた。

その年の秋の、姉の社中の演奏会では、師匠弟の琴、師匠の唄と三絃、それに老舗^(A)のクリーニング店当主で町の名士○さんの尺八という急造メンバーによる地唄〈黒髪〉の三曲合奏が披露されて、話題を呼んだ。町の人は、大の男も琴を弾くものだと知らなかつたのである。私自身も、まさか自分が人前で琴を弾くことになるとは思わなかつたから冷や汗三斗の思いであつたが、さいわいいちどもとちることなく弾き終えることができた。

もし、私にも、(b) 演奏家なみに楽器に想い出が持てるとすれば、それはなによりもまずあの社中演奏会で弾いた琴だということになるのだが、その想い出もいまではすっかり色あせてむかしの輝やきを失っている。

もとより琴にはなんの記録も痕跡も残されてはいない。姉が手放した瞬間にすべてのよごれも彩りも消えて、琴はただの琴に立ち返るのである。

四、五日前に、岩手の姉から、身許の確かな仲介者が見付かったので、近々琴の一部を渡すことにして、新調したそろいの布包にきつちりと包まれて身を固くしている。

運転席の窓からタバコの煙が流れている間、別れを惜しむような気持でほの暗い積荷の方をのぞいていると、不意に荷台のどこかでコオロギが鳴いた。それがあまりにも澄んだ美しい声だったので、気弱な琴のどれかがついいまわの声を洩らしたのではないかと、姉は思った。それを伝える電話口の声が心なしか潤んでいた。

(三浦哲郎『地唄△黒髪▽の思い出』)

【5】二重傍線部ABの漢字の正しい読みを、それぞれ①~⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問78】

- 7 A ①ばんろ ②はんりょ ③はんろ ④ともろ ⑤ばんりょ
8 B ①しつしゃく ②しかせき ③しつせき ④しかしゃく ⑤しつせい

【6】空欄ABに該当する語を、それぞれ①~⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問910】

9 A ①薄利多売 ②十把一絡 ③一束三文 ④粗製乱造 ⑤玉石混交

10 B ①雲隠れ ②国替え ③島流し ④東下り ⑤都落ち

【7】傍線部「小耳に」に続く(a)として正しいものを、(1)~(5)から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問11】

- 11 (a) ①はさんだ ②むかえた ③とらえた ④からめた ⑤おぼえた

【8】傍線部「演奏家」の前に置く(b)として正しいものを、(1)~(5)から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問12】

- 12 (b) ①それなりの ②いっぽしの ③そこそこの ④いちまつの ⑤まづまづの

【9】空欄△、△△、△△△には同じ語が入ります。正しいものを、(1)~(5)から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問13】

- 13 ①管 ②挺 ③台 ④面 ⑤棹

【10】筆者の作品として正しくないものを、①~⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問14】

- 14 ①『ユタとふしぎな仲間たち』 ②『忍ぶ川』 ③『繭子ひとり』
④『あすなろ物語』 ⑤『白夜を旅する人々』

【11】
波線部のように記した筆者の思いとして、ふさわしいと考えられるものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問15】

- 【15】
- ① 琴との別れは姉にとり辛いことだが、私たちの年齢を考えればやむをえなかつた、という思い。
 - ② あまりに辛い琴との別れに、手放すのをもう少し先延ばしにするべきだったかも、という思い。
 - ③ 人生を共にした琴との別れが姉にとりいかに辛いことであったかが、改めて伝わってきた、という思い。
 - ④ これからは琴との素敵な思い出を胸に、ゆっくりと日々を過ごしていってほしい、という思い。
 - ⑤ 琴との辛い別れではあるが、姉の人生はそれだけ中身の濃いものであつたのだ、という思い。

三次の問

【12】

～【16】の文章中、カタカナで記された言葉の漢字として正しいものを、それぞれ

①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

「その日は結局、我々も、おショウパンにあづかってしまった。」【解答欄は問16】

【12】
①商伴 ②紹伴 ③盛伴 ④相伴 ⑤招伴

【13】
①閉口 ②併口 ③丙口 ④兵口 ⑤並口

【14】
「いよいよ、沉迷に、ハクシャが掛かってきた。」【解答欄は問17】

【15】
①迫舍 ②拍車 ③柏射 ④拍舍 ⑤柏車

「この果物は、脳のカッセイに、不可欠だ。」【解答欄は問18】

【16】
①活成 ②活精 ③活生 ④活整 ⑤活性

【17】
「二つの看護チームの技術は、まさにキッコウしている。」【解答欄は問19】

【18】
①拮交 ②吉抗 ③拮抗 ④屹抗 ⑤拮向

【19】
【20】
①活成 ②活精 ③活生 ④活整 ⑤活性

四 次の問【17】～【21】の三字熟語の表記として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問【21】】

- ①「不如居」
②「不如意」
③「不如為」
④「不如位」
⑤「不如異」

【解答欄は問【22】】

- ①「序派急」
②「序刃急」
③「序破急」
④「序葉急」
⑤「序波急」

【解答欄は問【23】】

- ①「不退天」
②「不退典」
③「不退展」
④「不退点」
⑤「不退転」

【解答欄は問【24】】

- ①「長高舌」
②「長口舌」
③「長行舌」
④「長広舌」
⑤「長向舌」

【解答欄は問【25】】

- ①「真骨頂」
②「心骨頂」
③「芯骨頂」
④「深骨頂」
⑤「親骨頂」

【25】

【21】

【24】

【20】

【23】

【19】

【18】

【21】

【17】

